

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：釧路市地区
- 2 事例報告学校名：釧路市立光陽小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 隈 江 幸 男
- 4 キーワード：地域との連携と小中ジョイントプロジェクト

1 はじめに

本校は、昭和34年に共栄小学校と新川小学校の児童数が合わせて約5,000人になり、児童数の緩和を図るために釧路市内19番目の小学校として新設された学校である。現在は、全校児童が236名、14学級（特別支援学級4学級）の規模である。釧路市のほぼ中央に位置し、近隣には昔の運河を埋め立てて作られた長さ約2.4kmの柳町公園や地域の店舗が集まる愛国商店街がある地域である。

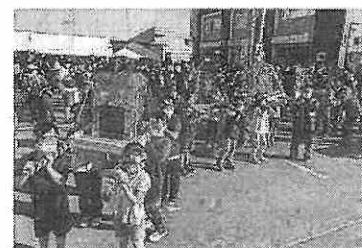
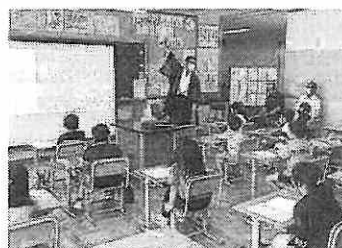


本校では、それらの地域素材や地域人材、地域との関わりを生かした教育活動に取り組んでいる。また、令和4年度から釧路市内の小中学校では、各中学校区で小中連携「小中ジョイントプロジェクト」を行っている。本稿ではその取組について紹介する。

2 地域との関わりを生かした教育活動

(1) 地域行事との連携（生活科）

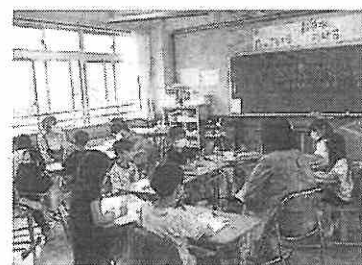
2年生では「えがおのひみつたんけんたい」をテーマに地域の祭りについて地域の方に話を聞いたり、手作りの御神輿で祭りに参加したりすることで、まちの人が地域のためにしていることや思いに気づき、まち



への愛着を深め、地域の人と相互に交流することの楽しさやよさを学ぶ学習に取り組んでいる。

(2) 地域素材や地域先生の活用（総合的な学習の時間）

中学年の総合的な学習の時間では、地域のよさやそこで働く人々の思いや願いを知ることを通して、社会の一員として自分で行うことや生き方について考える学習に取り組んでいる。3年生では近隣の公園内の施設や設備について公園緑化協会の方の話を聞いたり、公園の歴史を調べたりする「柳町公園探検隊」、4年生では光陽小学校や地域の歴史や愛国商店街について調べたり、実際に本校に通っていた地域の方や商店街の方を招いて当時の学校や地域の様子、商店街の取組を調べたりする「光陽の歴史を知ろう」などの地域学習を実施している。



(3) 学校支援ボランティアの活用

その他にも、低学年の生活科のおもちづくり、高学年の家庭科の裁縫、工作クラブのお手伝いや、朝の読み聞かせ、放課後学習の学習支援で、学校支援ボランティア（地域人材）



を活用している。

3 小中ジョイントプロジェクト

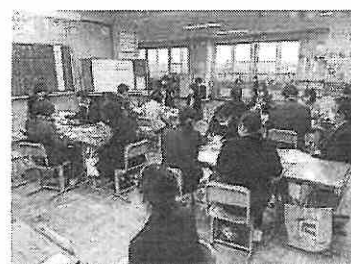
(1) プロジェクトの概要

鉦路市では、令和4年度より新たな組織を編成し、小中一貫教育を視野に入れた小中連携を強化する「小中ジョイントプロジェクト」の取組が各中学校区で行われている。本校は、「小学校から中学校への円滑な接続をととして中学校での急激な学力低下を防ぐこと」「コミュニティ・スクールなど小中連携をととして中学校区において保護者や地域住民との効果的な連携を図ること」「小中一貫教育に向けた基盤を確立すること」の三つを目的として共栄中学校と共栄小学校の3校で小中連携の取組を進めている。プロジェクトでは、3校合同の小中連携協議会を設置し、管理職会議、五つの部会代表による代表者会議を実施し、連携の取組内容について検討、提示を行っている。また、各部会においては具体的な連携の方法や改善策を協議し実践している。

(2) 学力向上の取組

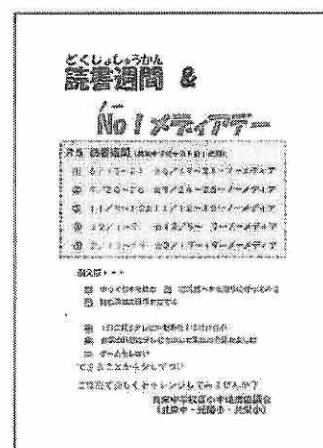
①授業力の向上

3校の道教委計画訪問では、授業参観、研究協議に互いの職員を派遣して参加し、研修内容の共有を行っている。また、外国語教育アドバイザーによる小中連携巡回訪問の際には、3校の外国語担当者や高学年担当者が中学校へのスムーズな接続へ向けた指導のあり方を検討している。その他にも中学校教諭による小学生へのジョイント授業の実施や3校校長による中学校区全ての教諭の授業参観と課題の共有に取り組んでいる。



②中学校校區における家庭学習の習慣化

中学生と小学5・6年生を対象に、統一した家庭学習計画表を用いた家庭学習の習慣化に向けた取組や、中学校のテスト週間（パワーアップ週間）に合わせて、小学校では読書週間とノーメディアデーを実施している。



(3) 各部会の取組

学力向上ICT部会では、一人一台端末の効果的な活用に向けて9年間を見通した系統的な指導計画の確認と教育活動について検討している。読書部会では、読書習慣の確立に向けて9年間の読書数の記録化や児童会と生徒会が連携した読書活動の取組を進めている。

不登校部会では、不登校の原因や現状、児童生徒との関わり方や学習支援のあり方について情報交流や支援方法について検討している。特別支援教育部会では、支援体制の交流や中学校卒業後の進路を見通した支援のあり方について協議を進めている。養護教諭部会では、メディアの利用時間と健康の関係についての情報発信や保護者への啓発活動として子育て講演会を実施している。

4 おわりに

本校は、令和2年度にコミュニティ・スクールの指定を受けたがコロナの影響から地域との連携が停滞している状況であった。しかし、コロナの5類移行に伴い、制限されていた地域行事が再開されつつある状況を受け、再び地域行事への参加や地域人材の活用を積極的に進めてきた。また、「鉦路市がめざす学校のすがた基本計画」に合わせ、小中連携「小中ジョイントプロジェクト」の強化に努めてきた。今後は、地域素材や人材を活用するなかで、子どもたちが地域のよさを知り、地域への愛着を深めるような活動を行っていくとともに、学校の教育活動を地域に発信することを通して、地域とともに子どもたちを育てる体制づくりに取り組んでいく。また、子どもたちの9年間の成長を考え、小中学校の接続を意識した学力向上や学習習慣の確立に向けた具体的な取組を行い、小中一貫教育の基盤づくりを推進していく。